

シリーズ(その⑦)

トライシティー TRY ICT やすぎ

ICT (情報通信技術) を活用した教育で学校や教室が変わる様子をシリーズでお伝えしています。

プログラミングで 身につける論理的思考

6月中旬、第一中学校での技術の授業。3年生が3人一組のグループで協働し、複数の種類のセンサーやモーターを組み合わせたロボットを製作します。タブレット端末でつくったプログラムで、製作したロボットを制御しながら課題に挑戦していく学習がスタートしました。

ロボットのセンサーで得た情報を活用し、より複雑な動きを創つ



▲ロボット教材を使い、プログラミングを体験する第一中学校の生徒。

ていく。コンピュータを積極的に活用する授業に取り組み姿は、とても頼もしさを感じさせてくれます。

国(文部科学省)が推進する「GIGAスクール構想」により、小中学校では1人1台のタブレット端末を生かした学習を展開しています。令和元年度より「情報活用能力を育成する」ことを目的としてプログラミング学習を小中学校に導入しました。

中学校3年生の「技術」で学ぶプログラミング学習の教材として、ロボット教材を導入し、全中学校で活用が始まりました。プログラミングを体験しながら、コンピュータを意図的に動かす論理的な思考を身につける教育を目指しています。

プログラミングを体験的に学ぶことを通して、コンピュータが社会や暮らしをどう支えているのか、これからの社会をコンピュータがどう支えていくのかといった、見方や考え方の育成に繋がっています。

問い合わせ

学校教育課 ☎23・3180

日本遺産を 巡るたたら の音色 日本遺産の 構成文化財 連載⑤



今月号は、鉄の積出港として栄えた「安来港と安来の街並み」と「民謡安来節」そしてたたらと祭りを紹介します。

江戸時代から明治時代にかけて安来は出雲国や伯耆国など周辺の山間部で生産された鉄を北陸や関西へと運ぶ鉄の積出港として栄えました。安来町には港から西灘、西小路地区にかけての通りに往時のたたら賑わいを伝える歴史的な建物が今も残っています。安来港近くから安来港修築記念碑、鉄問屋永井家記念碑、旧雲伯鉄鋼合資会社社屋、旅館荒文館、旧安来銀行跡地、割烹山常楼(国登録有形文化財)、並河家住宅(県指定文化財)などです。安来の港と街並みは、商いの町から鉄鋼生産の町へと歩んできた「ハガネの町安来」の歴史を物語っています。

また、鉄の賑わいは唄でも響きました。民謡安来節です。北陸など各地から荷を運び安来を訪れる船頭が唄う追分、おけさなどの民謡や舟歌などが盛んに交流し、それに独創性を加えた出雲節、さん

こ節をさらに改良して安来節の原型ができたといわれています。

安来節は唄・絃・鼓・踊・銭太鼓からなり、唄では、その

の土地の仕事や祭り、風習などを歌詞にしています。踊で有名な「どじょうすくい踊り」はそのひょうきんな身振りや表情で現在も多くの人々に親しまれています。

最後に、たたらと縁の深い祭りとして、奥出雲の鉄師下蔵家もたらした300年の歴史を持つ「大呂愛宕ばやし」があります。これは労働者となたら経営者との結びつきと、たたら製鉄と地域文化のつながりを理解できる伝統芸能です。

また、火伏(※)の神である秋葉大権現を祭る伝統芸能として、火を操るたたら製鉄の信仰を表した「竹崎十七夜」が日本遺産に認定されています。

※神仏が霊力で火災を防ぐこと

問い合わせ

和銅博物館 ☎23・2500



▲安来節を披露する保存会の皆さん。

